

続・全日本マスターズ群馬大会 M80・ハンマー投ほかで熱い戦い

写真提供／日本マスターズ連合

霜月。暦の上で冬に入る日といわれる立冬の8日も過ぎ、気候のいい秋ともお別れ、冬を迎える。陸上シーズンも駅伝、ロードでのイベントが各地で行われる季節だ。11月17日には第32回都道府県対抗・全日本マスターズ駅伝兼第8回全日本マスターズロードレース(愛知)があり、熱いレースを繰り広げる。いまだに熱戦の余韻が残る群馬・上州路での全日本マスターズ(9/13～16)の続報を――。

1位の河添さんら ユニークな面々が競った

第1日の午後1時30分から始まったハンマー投のM80に、珍しい選手が顔を見せた。全日本マスターズ選手権に初登場したのは、かつて順大で鳴らしていた道祖土正喜さん(82歳・埼玉)だ。

道祖土さんの出身校である順大は、全日本マスターズとほぼ同時期に岐阜市で行われた第88回日本インカレで9年ぶり28回目の対校戦優勝を遂げた名門だ。道祖土さんは陸上部6回生。卒業年度の1957(昭和32)年、インカレのハンマー投で49m90を投げ、3位に食い込んだ。これは順大陸上部創立以来、初入賞となるスローイングだった。時代は流れ、今回上州路のサークルから放った一投は25m04で順位は3位。握ったハンマーの重さはM80用の3.0kg、学生時代は7.260kgだ。

競技終了後、道祖土さんは「初めて参加しましたが、記録が伸びませんでしたね。堅くなったわけでもないのに。ベストはM80になった年、80歳のときの30m95です。去年は28m44だったか。記録は別にして、群馬での参戦は楽しかった」と話す。

このM80クラスで1位になったのは、32m31を投げた河添義澄さん(81歳・茨城)だった。腰痛や足の痛みをばり・灸で抑えて、ハンマー投に取り組んでいる。今回、1投目をノーター

ンで投げてみたが、30mほどで思ったような「投げ」ができなかった。その後、恐る恐る1回転で。最後の最後の一投で32mを超えて優勝を決めた。「腰や足の痛みを押して投げましたが、優勝できてホッと。道祖土さんとの顔合わせは3度目で、2勝1敗と勝ち越しました。これからも痛さを抑える治療に専念して、投げ続けたいと思います」。河添さんは日大出身で、1964年東京五輪の強化選手だった。

22m86で4位になった由川昇さん(82歳・三重)は以前このページで紹介した通り、インターハイ男子棒高跳史上、初のグラスファイバーポール優勝者(4m41＝高校新)となった喜田武志選手(伊勢高・三重)の恩師で、マスターズ陸上への参加は還暦から。

青春時代の跳躍から投てきに変えて、マスターズ陸上で活躍している。今回はハンマー投で「張り切りすぎたわけではありませんが、1投目から失敗。ようやく最後の4投目に慎重に落として22m台へ」。円盤投は23m15の5位、やり投が24m25の2位と、3種目入賞を果たした。「失敗したことを反省し、次の大会に生かします」と前向きの姿勢を示した。

W65・60m 松尾さんが大会新 農作業で大忙しの土井さん

W65・60mは2018年秋に奈良であった国際ゴールドマスターズで9秒39の日本記録をつかった松尾真弓さん(67歳・神奈川)が9秒58(±

0.0)の大会新で勝った。松尾さんは6月に福岡で開催された日本選手権のマスターズの部W65・100mに出場。本誌9月号で紹介したが、神奈川県にある葉山にここにこ保育園の園長だ。全日本マスターズは初めての参加。「私が頑張って走っている姿に、子供たちが熱くなってくれたら。もちろん、夢と目標を持ってくれることにも期待を懸けています」との思いを胸に駆けた。「参加して良かった。楽しかったし、うれしかった。来年の会場は福井ですって。あの桐生(祥秀)さんが9秒98の日本新を出した競技場で走れるんでしょう。私も新しい記録に向かって走れるように頑張ります」と、1年先の夢を語ってくれた。

2位の中村和代さん(67歳・岩手)も9秒62(±0.0)で走り、9秒67の大会記録を破る力走を見せた。そして、10秒71(±0.0)で4位となった、千葉の印西市からやってきた土井照子さん(69歳)を紹介。「私は“参加に意義”なんです。人に誘われるまま55歳から参戦して15年目。1年で最も楽しみにしているのがマスターズ陸上です」と言う。日々の農作業で大忙し。田になっている土地の広さは4町5反(約3.96696ヘクタール)もある。「稲刈りの季節になると、もみ摺りが終わるまで忙しいので、なかなか練習ができなくて。去年は練習なしで200mを走って」と笑う。

高校生のときは自宅から30km離れた粕日体へ、朝6時過ぎに家を出て

バスと電車を乗り継いで通った。「通学時間の都合で好きな陸上もしっかりできなかった」。高校生時代にやり残したこと(陸上)を、マスターズに求めているのか、今やのめり込んでいる。「群馬大会の1カ月後には、古希(70歳)の祝いを仲間同士で。来年はW70クラスで出られるので楽しみです」と話し、表情がほころんだ。

W80・走幅跳でW日本新 秋田さん、倉津さん

W80・走幅跳で秋田ソノ子さん(80歳・奈良)が2m87(+0.3)、2位の倉津緑さん(80歳・長崎)も2m76(±0.0)とそろって日本新を誕生させた。

これまでの日本記録は2m61で10年ぶりの更新。大会記録の2m58の更新は8年ぶり。

秋田さんは1年前の鳥取大会で79歳と不利な年齢ながら、立五段跳・W75クラスで日本新8m88を樹立。今回、W80に上がった秋田さんは立五段跳では8m56の日本新を出し、8m16の日本記録を大幅に破った。2種目での日本新に「これからも記録を求めて頑張ります」と張り切る。2位となったが日本新の跳躍を見せた倉津さんは、2016年新潟大会のW75・走幅跳で3m28、三段跳で6



W65・60mの決勝、中央が4位となった土井照子さん。農作業で忙しい日々の楽しみとして、陸上に情熱を傾けている。右(104)は2位の中村和代さん、左(105)は3位の長崎ひな子さん(広島)

m97のほか、60mでも10秒72で勝ち、三冠を達成した。その後、2年間のブランクを経て、3年ぶりの復活だった。「右足を故障した後、練習も満足にしていなかったから、この程度で仕方ないかな。だけど(記録が伸びずに)残念です」。倉津さんも今後には標準をピタリ。

第40回記念国際・全日本マスターズ陸上競技選手権大会

世界・日本・大会記録樹立者(9月15、16日分)

男子				
種目	クラス	順位	記録	選手(所属)
○400m	M24-	1位	50秒39	神田 直季(広島)
◎○5000m		1位	15分11秒57	若菜 優雅(福島)
◎○5000m		2位	15分15秒77	玉沢 良太(千葉)
○走幅跳		1位	5m86(+1.8)	藤木 丈(大阪)
○走幅跳		2位	5m67(-2.2)	戸館 僚(大阪)
○走幅跳		3位	5m43(-0.5)	本村 睦(大阪)
○400m		1位	48秒83	碓井 涼(千葉)
○400m		2位	49秒56	喜多嶋勝平(三重)
○400m		3位	51秒16	村松 裕也(東京)
○400mH		1位	54秒57	喜多嶋勝平(三重)
○400mH	M25	2位	54秒62	遠藤 瑞貴(群馬)
○走高跳		1位	2m05	道脇 大斗(愛知)
○走高跳		2位	2m00	社谷内達也(石川)
○走高跳		3位	2m00	山村 昂平(千葉)
○走高跳		4位	1m85	古沢 真人(栃木)
○走幅跳		1位	7m09(+0.8)	下村 諒(千葉)
○円盤投		1位	40m74	植野 俊(大阪)
○円盤投		2位	38m68	稲垣 太一(三重)
○やり投		1位	56m45	植野 俊(大阪)
○やり投		2位	55m96	柴田 欽通(京都)
◎○400m	M30	1位	48秒92	若菜 優太(千葉)
○400m		2位	49秒87	長谷川 健(三重)
○400m		3位	49秒89	厚谷 龍(埼玉)
○800m		1位	1分58秒94	井上 陽介(北海道)
○400mH		1位	52秒49	吉田 和晃(大阪)
○砲丸投		1位	12m73	内山 直彦(栃木)
○やり投		1位	57m58	若狭 友弥(福島)
○やり投		2位	55m27	水井 悠介(静岡)
○100m		1位	10秒89(-1.8)	末續 慎吾(神奈川)
○800m		1位	2分00秒03	有馬 優仁(東京)
○走幅跳	M40	1位	6m89(+1.8)	阿左美守彦(群馬)
○走幅跳		2位	6m83(+1.9)	尾熊 利昭(大分)
○100m	M45	1位	11秒36(-1.2)	水口 政人(神奈川)
○800m	M50	1位	2分07秒30	小西 亘(栃木)
○400m		1位	56秒16	池野 昌弘(大阪)
○400m	M55	2位	56秒44	スビード・ジョニー(米国)
◎○400mH		1位	1分01秒52	池野 昌弘(大阪)
○400mH	M55	2位	1分03秒82	佐藤 憲明(山形)
○走幅跳		1位	5m99(+0.3)	中澤 学(静岡)
◎○三段跳	M55	1位	12m81(+0.1)	中澤 学(静岡)
○三段跳		2位	12m47(+0.2)	青木 英晴(神奈川)
○3000m	M65	1位	10分37秒43	吉田 正(茨城)
○走高跳	M80	1位	1m25	鹿野 光正(山形)
■◎○800m	M95	1位	5分02秒72	宮内 義光(鹿児島)
◎○4×400mR	M25	1位	3分22秒03	千葉 雄井 涼・永橋 武・増田 淳・勝俣 章博
◎○4×400mR		2位	3分22秒86	群馬 小倉 篤人・横山 尚明・田村俊太郎・岩野 康平
○4×400mR	M30	1位	3分24秒45	埼玉 金子 純・今泉 和真・星 圭祐・厚谷 龍
○4×400mR		2位	3分26秒73	神奈川 井山信一郎・角島 寛樹・植村 祐太・中村 佑樹
◎○4×400mR	M40	1位	3分27秒71	東京 稲田 貴博・古井 義文・北尻 晃久・西田 省三

○4×400mR	M45	1位	3分43秒66	神奈川 藤田 勝寛・小山田範人・浅野 益男・古賀 功亮
○4×400mR	M50	1位	3分48秒98	大阪 福島 健士・辰巳 典正・森 義行・池野 昌弘
○4×400mR		2位	3分50秒67	神奈川 高坂 邦安・長谷川 浩・小林 裕・宮本 義久
◎○4×400mR	M55	1位	3分57秒46	神奈川 藤村 勝・杉崎 和彦・森山 賢一・鈴木 久夫
○4×400mR		2位	4分01秒13	愛知 畠中 一起・奥山 雄一・都築 大・杉浦 拓
○4×400mR	M70	3位	4分09秒12	東京 森畑 孝志・麻生 裕之・畠山 直樹・笹野 幸夫
○4×400mR		1位	4分47秒70	千葉 増田 金次・鈴木 久一・鶴岡 道雄・山崎 雅彦

女子				
種目	クラス	順位	記録	選手(所属)
○100m	W24-	1位	12秒58(-0.9)	松林 玲佳(高知)
○400m		1位	1分01秒33	伊藤 里帆(愛知)
○5000m		1位	22分25秒34	佐藤 真衣(群馬)
◎○やり投		1位	40m09	杉本 知佳(高知)
◎○やり投	W25	1位	35m70	丸山 里菜(群馬)
○400m		1位	1分01秒81	植村 友美(神奈川)
○走高跳	W30	1位	1m57	筆野 友里(神奈川)
○三段跳		1位	11m81(0.0)	筆野 友里(神奈川)
○800m	W50	1位	2分21秒26	植村 友美(神奈川)
○400m		1位	1分04秒75	宮本 百合(愛知)
○800m	W50	1位	2分29秒94	新城かおり(東京)
◎○円盤投		1位	35m65	喜多嶋良子(三重)
○100m	W55	1位	13秒55(+0.5)	アブシャウ・ジョイ(米国)
○100m		2位	13秒84(+0.5)	金子 葉子(愛知)
○400m	W55	1位	1分08秒22	金子 葉子(愛知)
○400m		2位	1分08秒32	有野 敏子(東京)
◎○やり投	W60	1位	36m06	八代香津子(愛知)
◎○100m		1位	14秒39(+1.4)	高橋 葉子(神奈川)
◎○400m	W65	1位	1分14秒48	有川 朝子(京都)
◎○300mH		1位	1分01秒36	太田くろみ(茨城)
○走高跳	W80	1位	1m18	中山貴代子(岩手)
◎○やり投		1位	28m41	加藤 恵子(和歌山)
◎○円盤投	W80	1位	20m77	安番 昌子(神奈川)
○やり投		1位	15m28	刈部 裕子(兵庫)
○400m	W85	1位	2分17秒98	岡野なつみ(神奈川)
○やり投		1位	4m46	チェン・スエット・リン(香港)
◎○4×100mR	W24-	1位	50秒61	愛知 宮下 秋穂・伊藤 里帆・山崎めぐみ・酒井あおい
○4×100mR		1位	50秒80	神奈川 渡辺 彩香・筆野 友里・木本美佐子・植村 友美
◎○4×400mR	W30	1位	4分16秒76	神奈川 武川由加子・植村 友美・木本美佐子・筆野 友里
○4×100mR		1位	59秒09	香港
○4×100mR	W40	1位	リー・マン・ヤン・ウォン・チョウ・クワン・ジョイス・ウォン・メイ・イー・チャン・イェン・ティン・アイダ	東京
○4×100mR		1位	54秒92	東京
◎○4×400mR	W45	1位	4分29秒68	東京 福丸 裕子・田中 麻理・有野 敏子・常見 知永
◎○4×400mR		1位	4分29秒68	東京 田中 麻理・水藤 孝子・常見 知永・新城かおり

(■は世界新、◎は日本新、○は大会新)